

IMFの世界経済見通し

～2018年、2019年ともに成長率予測は上方修正

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

IMF(国際通貨基金)は1月22日に最新の世界経済見通しを発表しました。循環的な景気回復が勢いを強めていることなどを背景として、先進国における成長見通しが上方修正されたことなどから、2018年、2019年の世界の成長率予測は共に3.9%に上方修正されました。

先進国の成長率は、2018年は2.3%、2019年は2.2%になる見通しです。米国については、税制改革と、それに伴う投資の拡大が経済成長を一時的に加速させるとして、2018年の成長率予測は2.7%、2019年は2.5%に上方修正しており、引き続き先進国の成長をけん引するとしています。また、米国の税制改革は、カナダやメキシコをはじめとした米国の貿易相手国に需要面でのプラスの影響を与えるとしています。ユーロ圏の成長率予測は、内外需ともに好調であることなどから、上方修正しました。日本については、外需予測の上方修正や2018年の補正予算などを背景に、2018年の成長率予測を1.2%と大きく上方修正しています。2019年の成長率についても上方修正されたものの、0.9%にとどまるとしました。

新興国については、昨年10月の見通しを据え置き、2019年にかけて成長が加速するとしています。中国については、外需が堅調との見方から2018年、2019年ともに成長率予測を上方修正しています。また、米国の需要増加の恩恵が見込まれるメキシコや、経済回復が確かなものとなりつつあるブラジルについても上方修正されました。一方、南アフリカについては、政治的な不確実性が増していることなどから、成長率予測を大きく下方修正しました。

IMFは今後のリスクとして、資産価格が高水準にあるなか、主要国で物価上昇率が高まって金融緩和の縮小ペースが想定より速まる場合、金融市場に修正が起こる可能性をあげています。また、先進国における保護主義的な政策圧力の強まりや、地政学的な緊張の高まり、複数の国での政治的な不確実性についても言及しています。

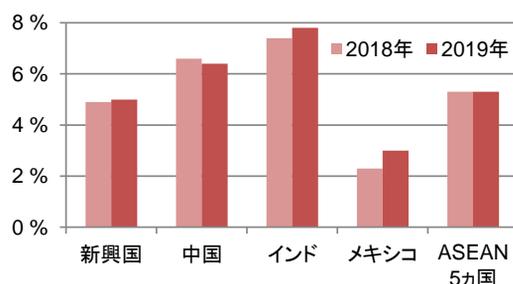
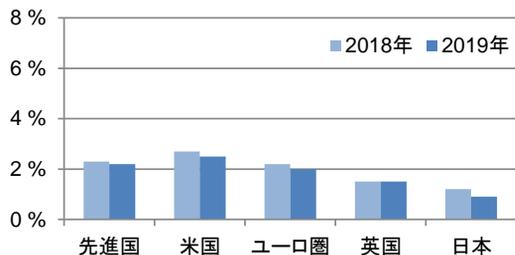
IMFの世界経済見通し

<白背景部分は2017年10月時点の予測との比較(%ポイント)>

	2016年	17年推計	18年予測	19年予測	2017年10月時点の予測との比較(%ポイント)	2017年10月時点の予測との比較(%ポイント)
世界	3.2%	3.7%	3.9%	0.2	3.9%	0.2
先進国	1.7%	2.3%	2.3%	0.3	2.2%	0.4
米国	1.5%	2.3%	2.7%	0.4	2.5%	0.6
ユーロ圏	1.8%	2.4%	2.2%	0.3	2.0%	0.3
ドイツ	1.9%	2.5%	2.3%	0.5	2.0%	0.5
日本	0.9%	1.8%	1.2%	0.5	0.9%	0.1
英国	1.9%	1.7%	1.5%	0.0	1.5%	-0.1
カナダ	1.4%	3.0%	2.3%	0.2	2.0%	0.3
新興国	4.4%	4.7%	4.9%	0.0	5.0%	0.0
中・東欧*	3.2%	5.2%	4.0%	0.5	3.8%	0.5
ロシア	-0.2%	1.8%	1.7%	0.1	1.5%	0.0
アジア	6.4%	6.5%	6.5%	0.0	6.6%	0.1
中国	6.7%	6.8%	6.6%	0.1	6.4%	0.1
インド**	7.1%	6.7%	7.4%	0.0	7.8%	0.0
ASEAN5カ国***	4.9%	5.3%	5.3%	0.1	5.3%	0.0
中南米ほか	-0.7%	1.3%	1.9%	0.0	2.6%	0.2
ブラジル	-3.5%	1.1%	1.9%	0.4	2.1%	0.1
メキシコ	2.9%	2.0%	2.3%	0.4	3.0%	0.7
中東・北アフリカほか	4.9%	2.5%	3.6%	0.1	3.5%	0.0
サハラ以南のアフリカ	1.4%	2.7%	3.3%	-0.1	3.5%	0.1
南アフリカ	0.3%	0.9%	0.9%	-0.2	0.9%	-0.7

(出所: IMF「World Economic Outlook Update, January 2018」)

主な先進国(上)、新興国(下)の経済成長率 (2018年予測、2019年予測)



*ロシアなど、CIS(独立国家共同体)構成国を含まない

**年度ベース(上記各年の4月から翌年3月まで)

***インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム

※上記は過去のものおよび予測であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。